

TOKAI CO-OP

Sustainability Report

2025

東海コープ事業連合
サステナビリティレポート 2025



生活協同組合連合会
東海コープ事業連合



東海コープ事業連合は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

東海コープ事業連合の活動報告発刊にあたって



統括専務理事
小野 修三

2024年は、気候変動によるリスクの影響が顕在化した年になりました。日向灘地震を受けた南海トラフ地震臨時情報や台風10号の影響に加え、災害レベルの猛暑は農作物へ大きな影響を及ぼしました。特に米穀については、インバウンド需要も重なり、「令和の米騒動」と呼ばれるほど

不足し、東海コープでも欠品が続きました。経済環境では、円安による製造業の好況、株高、賃上げなど好況感が進むもインフレーションが組合員の暮らしを直撃しました。

秋に発足した新内閣は与党が過半数を割れており、政治の停滞、経済政策や社会保障制度の改革の遅れなどが懸念されます。米国ではトランプ政権となり、関税の引き上げ、パリ協定の離脱、WHOの脱退など国際社会における影響が心配されます。中東ではイスラエルとハマスの一時的な停戦が実現しましたが、ウクライナへの侵攻は継続しています。そんな中、「日本被団協」がノーベル平和賞を受賞し、平和を考える機会となりました。

上記の環境の中で2024年度は組合員の暮らしの願いに応える宅配事業をめざした中期戦略に基づき、持続可能な事業への改革を進めました。宅配事業は若年層の参加と利用定着に向けて3生協との宅配ブランディングの検討やくらし応援企画などを進めました。シニア層の対応としてミールキットの個食対応や高品位、少量企画の充実などのMDの強化、シニア向けの注文電卓アプリのリリースなどを

行い、EC利用を推進しました。宅配物流では、ロジスティクス最適化をめざし、統合新ドライセツトセンター建設に向けての準備、店舗事業は、経営改革に伴う閉店や改装を通して持続可能な店舗事業への道筋づくりなどを行いました。

そのような取り組みの中、持続可能な社会への実現に向けて、商品案内、OCR注文用紙はECシフトを通じて紙の削減をめざしています。商品利用を通して「エシカルなお買い物」を応援する「コープの森づくり」では森、川、海を守り育てる取り組みに加え、温暖化でのサンゴの白化を受けて植樹活動資金のあり方の見直しの検討を行いました。ペットボトルリサイクルではその範囲を広げて回収できるような相談、太陽光発電は新設する統合新ドライセツトセンターの導入検討など、SDGsで掲げる目標を推進する会員生協の事業プロセスへの関与を継続的に強めています。

2025年は国連が定めた「国際協同組合年」であり、平和を希求し、地域社会の生活の安定と向上を図る生協への期待は大きくなっています。東海コープの第5次中期計画後期2年目にあたり、上記の環境下での組合員のくらしの厳しさに寄り添い、若年層、ミドル層、シニア層、グラントシニア層の4つの世代別の対応を宅配リノベーションから具体化します。重点課題について継続して取り組みながら2030年のあるべき姿を具体化する次期中期計画の策定、全国生協における新たなリージョナル連帯の在り方の変更や協同の強化など、会員生協や取引先の皆さんと一緒に推進していきます。

2025年6月

東海コープ事業連合の理念

未来につながる安心生活 東海の豊かな自然と、人と人のつながりを大切にします

東海コープ事業連合について

生活協同組合連合会東海コープ事業連合は、東海3県で活動するコープぎふ・コープあいち・コープみえが会員となります。3生協から商品の企画・開発・調達、物流、情報システム等の事業の一部を委託された連帯組織で、組合員へのお役立ちと3生協の事業経営に貢献することをめざしています。

東海コープ事業連合 第5次中期計画 2022-2026(前期2022-2023/後期2024-2026)

重点課題(2024年度事業方針)

- 持続可能な基幹事業、組合員のくらしの願いに応える宅配事業となるよう会員生協主体の中期戦略に基づき、リノベーションと持続可能な事業への改革を進めます。
- 魅力あるMDへの改革を進め、年代ごとの要望に応えます。
- 東海コープの役割を明確にした店舗事業へ転換をします。
- 宅配リノベーションの実現を担う物流基盤へ転換します。
- 会員生協と事業連合で連携して経営構造の見直し、一体的な人材育成に取り組みます。



第5次中期計画推進マーク※

※東海3県(コープぎふ・コープあいち・コープみえ)の形をモチーフに、東海コープ事業連合の頭文字の『T』が浮かびあがるデザインです。第5次中期計画の達成に向けて、東海3生協への貢献と一致団結して取り組んでいく姿勢を表現しました。

SDGsは生協・協同組合の理念と重なり合っています

生協は、助けあいの組織として、誰もが笑顔でくらすことができ、持続可能な社会であることをめざしてきました。誰も取り残さないというSDGsが求めるものは、生協の理念と重なり合っています。世界を変えるための壮大な目標であるSDGs、達成には一人ひとりの日々の生活や意識を変えることが不可欠です。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

- | | | | |
|----------------------|--|-----------------|--|
| 1 貧困をなくそう | あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる | 2 飢餓をゼロに | 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する |
| 3 すべての人に健康と福祉を | あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する | 4 質の高い教育をみんなに | すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する |
| 5 ジェンダー平等を實現しよう | ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う | 6 安全な水とトイレを世界中に | すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する |
| 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに | すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する | 8 働きがいも経済成長も | 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する |
| 9 産業と技術革新の基盤をつくろう | 強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る | 10 人や国の不平等をなくそう | 各国内及び各国間の不平等を是正する |
| 11 住み続けられるまちづくりを | 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する | 12 つくる責任 つかう責任 | 持続可能な生産消費形態を確保する |
| 13 気候変動に具体的な対策を | 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる | 14 海の豊かさを守ろう | 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する |
| 15 陸の豊かさも守ろう | 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する | 16 平和と公正をすべての人に | 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する |
| 17 パートナリシップで目標を達成しよう | 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する | | |

SDGs(持続可能な開発目標)とは

2015年9月ニューヨーク国連本部において、150を超える国連加盟国首脳が参加のもと、国連持続可能な開発サミットで採択されたものです。2016年~2030年の15年間で達成するために掲げた、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標(SDGs)」です。本報告書では、SDGsの目標と関わりのある生協の事業・活動の事例にSDGsのアイコンを掲載しています。

TOKAI CO-OP Sustainability Report 2025

INDEX

1	コープのエシカルな取り組み	03
2	多様化する組合員のくらしに応える企画・紙面づくり	05
3	商品の改善・開発	07
4	より便利に商品を利用できる注文の仕組みの改善	08
5	くらしにお役立ちできる店舗へ	09
6	組合員のくらしの幅を広げる品揃えに応える物流改革	10
7	安全と安心の取り組み	11
8	組合員のくらしに寄り添ったサービスを提案	13
9	会員生協とともに進めるリサイクルの取り組み	13
10	働きやすい環境づくりと職員の学習	14
11	くらしの保障をとおして安心と笑顔をお届け	14

1 コープのエシカルな取り組み

生協では地球や環境、社会や人々に配慮してモノやサービスを買うことを「エシカルなお買い物」（エシカル消費）と表現し、積極的に応援しています。
エシカルとは「倫理的」という意味です。2024年度もさまざまな取り組みを行ってきました。

世界の子どもたちに笑顔を

■ ディルマ スクールバッグ提供支援プロジェクト

エシカルな取り組みとして、組合員と一緒に支える「スクールバッグ提供支援プロジェクト」を2017年8月からはじめて7年が経過しました。ディルマ紅茶製品1点利用につき、1円が支援金として拠出されます。2024年度は1月から小学校に入学するスリランカの子どもたちに、スクールバッグを33個届けました。2024年12月6日（金）スリランカ中部ナワラビディヤ地域「Lower Kotmale Club」集会所にて開催されたスクールバッグ贈呈式で、鈴木理事長から一人ひとりに手渡されました。

2018年度～2024年度のスクールバッグ贈呈数

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
数量	79個	84個	77個	85個	55個	38個	33個

■ レッドカップキャンペーン

「コープヌードルシリーズ」を中心に、商品案内2024年10月1週（40号）特集紙面で紹介しました。対象商品1点利用につき1円を国連WFP（人道支援機構）に寄付しています。

取り組み期間	2024年10月1日～11月10日
寄付金額	316,534円（宅配285,982円、店舗30,552円）



乳がんについての啓発と患者・家族への支援

■ ピンクリボン運動キャンペーン

対象のCO・OP化粧品1点利用につき1円を、認定NPO法人J.POSH（日本乳がんピンクリボン運動）に寄付し、乳がんに対する啓発活動や、患者や家族の支援を進めています。

取り組み期間	2024年9月1日～10月20日
寄付金額	73,594円（宅配62,989円、店舗10,605円）



2022年度～2024年度の利用点数、スクールバッグの単価、贈呈数の推移

年度	2022	2023	2024
東海コープの利用点数	46,081点	39,718点	36,477点
単価	832円	1,067円	1,128円
贈呈数	55個	38個	33個

■ コアノンスマイルスクールプロジェクト

コアノンロール1点利用につき1円を、ユニセフを通じてアンゴラ共和国に寄付する活動です。寄付金は「アンゴラの子どもたちが楽しく学べる環境づくり」のために使われています。

取り組み期間	2023年11月1日～2024年10月31日
寄付金額	788,106円（宅配711,546円、店舗76,560円）



資源保護と環境に配慮した商品活動

■ コープの森づくり

商品利用を通して、その商品の原料産地の森、川、海の環境を守り育てる取り組みを、北海道の野付、沖縄県の恩納村、インドネシアのタラカン島で取引先の皆さんと協力し交流しながら進めています。「コープの森づくりマーク」がついた商品

1点利用につき1円が北海道野付では山に植えられる苗木の購入、沖縄県恩納村ではサンゴ再生活動に活用され、インドネシアタラカン島ではマングローブ苗の購入に充てられています。2024年度は約160万円を産地に送ることができました。2024年の夏、沖縄県恩納村では長期間にわたる高温の海水温が続き、多くのサンゴが死滅してしまいました。2010年度から継続してサンゴ苗を購入し植樹を続けてきましたが、大きな被害が生じました。恩納村漁協は、いち早くサンゴ再生に向けた取り組みを開始しています。これまでサンゴ苗を購入することでサンゴ再生を応援してきましたが、2024年度の基金は恩納村で展開されるサンゴ再生のための活動を支援します。

植樹本数の推移

植樹した年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	合計
沖縄県恩納村の里海づくり（サンゴ再生活動）	23	104	208	247	260	260	288	324	306	338	321	357	329	331	0	3,696
北海道野付のお魚を増やす植樹活動	500	330	50	530	500	530	750	730	700	700	700	700	700	700	700	8,820
インドネシア・タラカン島のマングローブ植樹活動	—	1,613	1,051	4,300	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	23,464

■ うなぎ資源対策協力金

2024年10月29日一色うなぎ漁業協同組合にて「うなぎ資源対策協力金」贈呈式が開催されました。その後、一色漁港で開催された供養祭、放流式にも参加し、うなぎ資源保護の取り組みを応援しました。2024年度はうなぎ資源対策協力金の対象期間（5月1週～8月5週）中、対象商品の

利用の中から一定額を寄付金として拠出し、愛知県養鰻漁業協会へ275,556円、鹿児島県ウナギ資源増殖対策協議会へ47,610円、水産研究・教育機構へ5,290円の寄付を行いました。継続して、うなぎ資源の保護、増殖対策、種苗研究を応援しています。

※鹿児島県ウナギ資源増殖対策協議会、水産研究・教育機構への協力金は2023年9月21日～2024年9月20日までを対象期間としています。

うなぎ資源対策協力金の年度別寄付金額

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	合計
愛知県産※1	0円	483,606円	376,941円	393,222円	369,156円	225,324円	239,364円	275,556円	2,363,169円
鹿児島県産※2	23,307円	17,493円	70,020円	79,605円	81,417円	65,231円	58,356円	52,900円	448,329円

※1:愛知県産対象商品利用に応じた寄付金額 ※2:鹿児島県産対象商品利用に応じた寄付金額



持続可能な生産を支援

■ コープの洗剤環境寄付キャンペーン

対象のCO・OP洗剤1点利用につき0.5円を、WWFジャパンに寄付し、「持続可能なパーム油の生産などを支援する活動」につながります。

取り組み期間	2023年5月21日～2024年5月20日
寄付金額	304,729円（宅配284,007円、店舗20,722円）

WWFジャパン（公益財団法人世界自然保護基金ジャパン）

WWFは100カ国以上で活動している環境保全団体で、1961年にスイスで設立されました。人と自然が調和して生きられる未来をめざして、サステナブルな社会の実現を推し進めています。WWFジャパンは、1971年、世界で16番目のWWFとして東京で設立された公益財団法人です。科学的な知見に基づき、「地球の温暖化を防ぐ」「持続可能（サステナブル）な社会を創る」「野生動物を守る」「森や海を守る」の4つのテーマを柱に活動をしています。



要望に応える品揃え・企画づくりと注文のしやすさの両立をめざしました。

「いつでも注文カタログ」「Web限定菓子・雑貨」掲載商品の品揃えと価格を見直しました

2024年6月1週から掲載商品の見直しを行い、市場に負けない価格に変更しました。これらの商品は『いつもオトク』の価格表記でご案内し、第4四半期は商品案内「食品&雑貨」表紙でも毎週1品を掲載して紹介しました。



組合員のくらしを応援する取り組みを継続しています

さまざまな商品の価格が値上がりする中で、組合員のくらしを応援する企画を実施しました。全国の生協で統一して取り組んだ「くらし応援全国キャンペーン」の他、東海コープでは「くらし応援20%以上OFF」特集で組合員のくらしに貢献しました。また、少しでもお値打ちに購入していただける企画として「大容量・ケース特集」を強化しました。



組合員の声を掲載して商品を紹介します

「おいしかった!」「こんな使い方ができて便利!」など組合員の声を掲載した商品紹介を強めました。現在は1年前の約2倍(週平均40件)の声を掲載しています。



震災復興支援企画

2011年3月の東日本大震災、2024年1月の能登半島地震の被災地を支援する取り組みとして毎月1回「復興支援特集」を企画しました。11月からは毎回、生産者・製造メーカー1社を大きく取り上げ、社員の方の声を掲載して商品を紹介しています。能登半島地震から1年経過した1月1週には被災メーカー株式会社スギヨの復興状況を記事で紹介し、継続した支援を呼びかけました。



東海3生協の仲間づくり推進

TVCM、Web広告、TRY CO・OP、ハピハピボックスの取り組み

TVCM・Web広告

生協の認知を広げ加入いただくことを目的とし、東海3生協と一緒に、TVCMと広告を展開する取り組みを行いました。また、「人気商品おためしセット」として、加入前に生協の人気冷凍商品5品を500円でお試しいただく取り組みを進め、Web広告を活用して積極的に案内しました。



TRY CO・OP

若年層の認知度の向上や加入促進をめざし、Webサイト上で商品をお試し利用できる「TRY CO・OP」の取り組みを行いました。東海3生協で570名のお申し込みをいただき、うち84名に加入いただきました。(2025年3月20日時点)



ハピハピボックス

コープぎふ・コープあいち・コープみえから、東海3県にお住まいの1歳未満のお子さまをお持ちの方へ、赤ちゃんの誕生をお祝いして27,349個のハピハピボックスをプレゼントし、9,008名の方に加入いただきました。(2025年3月20日時点)

●中京テレビにて、ハピハピボックスのCMを放映中です。
放送時間／毎週月曜・木曜夕方6時56分頃、
情報番組キャッチ「かぞくのめばえ」の後



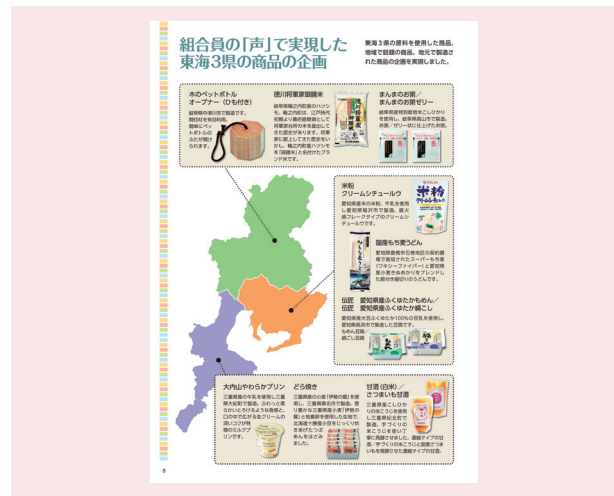
3 商品の改善・開発

組合員の改善要望の「声」に応えました。

声をカタチに 改善・開発事例集の発行

会員生協組合員の商品づくりや商品改善、商品確かめ活動など、商品を中心としたコミュニケーションの事例などを掲載しました。組合員・役職員・取引先への情報発信と共有化をめざし4月、10月に発行しました。

●改善した商品の紹介事例



改善・開発事例集で情報発信した商品数(組合員検討商品)

事例集	2022年度	2023年度	2024年度
4月発行	7	11	9
10月発行	9	10	11
合 計	16	21	20

東海3県 地場・地元の商品

会員生協の要望より、東海3県の地場・地元の商品の導入、開発を進めました。東海3県の原料の活用、食文化・味・産業、地元高校が関わる産学連携の取り組み、地場の伝統産業の紹介ができる商品の導入、東海3県の農産物の産地開発、地元企業のコラボ商品の開発など、地場・地元に関わるさまざまな視点で商品を調査しました。組合員が東海3県の魅力を再発見できるような商品の導入、開発を進めました。

●東海3県の原料を活用した商品の導入例



ごはんのおとも(きくらげ)
岐阜県東白川村産きくらげを使用した佃煮



奥三河の茶・山里の香り・緑茶ティーバッグ
愛知県新城市・設楽町産の茶葉を使用した緑茶ティーバッグ



伊勢志摩あおさのりたれ
タレに三重県産のあおさを使用した納豆



4 より便利に商品を利用できる 注文の仕組みの改善



e-フレンズ改善内容

改善① 主に高齢者にとって使い勝手の良い「らくらく注文」をリリース。商品案内を片手に、注文番号を入力することで注文ができるよう、昔の注文電卓をイメージしながらスマートフォンアプリで再現しました。毎週e-フレンズの利用者12万人のうち1万人弱の方が利用しています。



2007年まで使用していた注文電卓



改善② 組合員アンケートから要望が多かった、e-フレンズから予約の追加・変更・停止ができるようになりました。「今まで要望していたことが実現されてよかった」との声をいただいています。



改善③ 今後の企画予定の商品が検索できるようになりました。さらに、企画予定の商品を先どり注文することができるようになりました。商品は商品名、他、バーコード(JANコード)をカメラで読み取り検索もできます。



5 暮らしにお役立ちできる店舗へ

12 つくば市
つくば市

持続可能な店舗事業をめざした店舗のリニューアル

2024年度にはコープみえ・みやがわ店(6月)、コープあいち・コープ高蔵寺ニュータウン(10月)、コープぎふ・芥見店(11月)の3店舗がリニューアルオープンしました。

地場野菜のコーナー化

みやがわ店ではこれまで取り扱っていた地元農家の産物をコーナー化、コープ高蔵寺ニュータウンでは新たに地場野菜の取り組みをはじめました。芥見店はリニューアル前から好評だったおんさい広場(JAぎふ)と地元の産物をコーナー化しました。



魚屋の寿司

みやがわ店、コープ高蔵寺ニュータウンでは新たに魚屋の寿司を導入しました。鮮魚部門ならではのネタの鮮度でおいしいと好評です。すでに導入していた芥見店ではリニューアル後、品揃えがさらに充実しました。



惣菜コンサルタント指導に基づくコープオリジナル商品の展開

惣菜コンサルタント指導商品では「おいしさ」を追求するため岐阜県産若鶏のもも肉を使用したから揚げや店内でパン粉付けを行う手仕込みとんかつを導入、リニューアルした芥見店をはじめ9店舗で展開しています。



暮らし応援の取り組み

暮らし応援キャンペーン

9～11月、「暮らし応援全国キャンペーン」に取り組みました。いつも利用する商品をよりお値打ちに提供することで組合員の暮らしを応援しました。



NB商品の価格の見直し

宅配事業に合わせて利用頻度の高い商品105品について利用しやすい価格の見直しを行いました。



利用しやすい仕組み

Web予約注文導入

店舗で好評の予約企画を来店しなくてもWebで予約できる仕組みを導入しました。初年度の目標として利用者全体の5%をめざしていましたが、利用者の約10%がWebで予約されるようになりました。



6 組合員の暮らしの幅を広げる品揃えに応える物流改革

10 人々の暮らし
をよりよく

11 人々の暮らし
をよりよく

冷凍コールドチェーン運用の開始

冷凍商品の品質向上(溶け対策)とドライアイス削減を目標に、冷凍コールドチェーン※1運用に向け、会員生協と小牧要冷SC※2と検討を進めました。小牧要冷SC内へ50台の冷凍蓄冷材凍結機を設置し、冷凍Zシッパー※3にあらかじめ冷凍蓄冷材6枚を投入、スノードライアイス投入せずに支所センターに納品したうえで、更に冷凍蓄冷材9枚を追加投入し配送する実証テストをコープみえ紀北センターで実施しました。品温検証や運用上の課題、手順を整理し、10月21日より本格運用をスタートさせ、その後、コープぎふ飛騨支所でも運用を開始しました。また、小牧要冷SCの冷凍蓄冷材凍結機について、2025年度、50台の追加設置を計画しており、コープぎふ、コープあいちで検討されている支所センターのリニューアル・再編計画に対して、一定対応できる準備が整いました。



※1: 冷凍コールドチェーンとは、食物流の特徴の一つで、冷凍食品など低温管理が必要な商品を生産～消費者(組合員)にお届けするまで、所定の温度(冷凍)を保ったまま管理し、流通させる仕組み。
※2: SCとは、東海コープの物流センターで商品を箱にセット(仕分け)する場所。(全国一律の呼称ではありません)
※3: Zシッパーとは、大型の保冷ボックス(断熱材使用)。

包装機導入による生産性向上

一昨年の無印良品の取り扱い開始に伴い、桑名SCでは商品の養生(袋詰め)作業を追加しました。養生対象商品は25～30アイテムで年間58,916点。これまでは作業員複数人で(袋に入れる→シールを止める→仕分け整理をする)流れ作業として養生(包装)作業を行っていましたが、人時生産性を高めるため、包装機を、2024年度下期より導入しました。この導入により、年間138,000円のコスト削減を実現しました。



●年間人件費比較			
現行バックシラー手作業		包装機(PS125OSプリンター付き)	
作業時間	約196.3時間	作業時間	約65.5時間
単価	×1,060円	単価	×1,060円
人件費	207,706円	人件費	69,430円
1分5袋で試算		1分15袋で試算	

フードバンク活動

パッケージ変更や賞味期限が基準より短くなり、処分せざるを得ない商品を、NPO法人フードバンクぎふとNPO法人セカンドハーベスト名古屋、NPO法人のわみサポートセンターを通じて支援を必要とするご家庭や諸団体にお届けしています。2024年度に提供した量は、約73トン(前年比85.4%)でした(昨年4月より、引き取りの都合により青果品の提供が保留となった関係で提供量は減少しています)。2024年度は、18才以下の子どもを育てる家庭への支援が急増しました。収入は増えず、主食のお米などありとあらゆる商品の値上げにより、家計が苦しく支援の必要な方は増加しています。反面、提供いただける商品は年々減少傾向で、各団体ともに食品の確保が急務となっています。引き続き、東海コープは、継続的な支援活動を展開します。



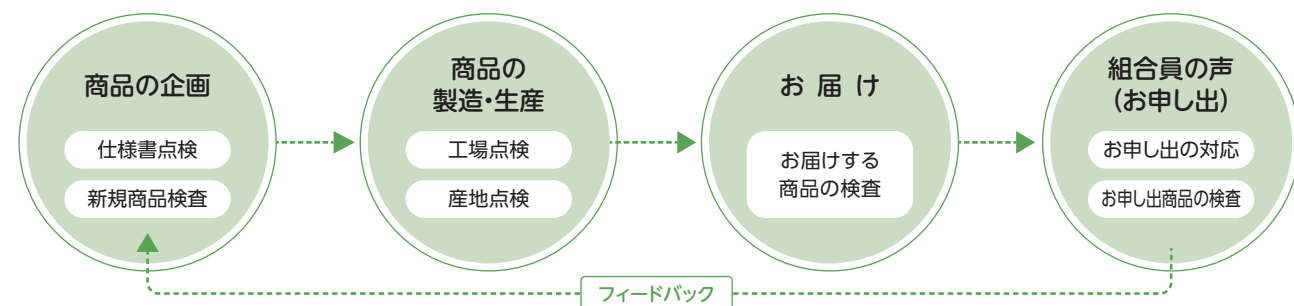
フードバンクへの提供量		単位: kg		
提供団体	2023年度	2024年度	前年比	
東海コープ	86,465	73,865	85.4%	
ヤマモリ株式会社		2,017	2,114	104.8%

フードバンクでの活用量		単位: kg		
支援団体	区分	2023年度	2024年度	前年比
セカンドハーベスト名古屋	個人支援	5,923	6,287	106.1%
	団体支援	14,119	10,044	71.1%
フードバンクのわみ	個人支援	56,892	44,695	78.6%
	個人支援	9,531	12,839	134.7%
合計		86,465	73,865	85.4%

7 安全と安心の取り組み

会員生協や商品部と連携し、商品管理とお申出対応レベルの向上に取り組んでいます。

2024年度 品質保証の取り組み



仕様書点検 5,910件

不使用添加物やアレルギー表示などのチェックを行いました。

新規商品検査 416件

取引先の商品を確認するために、微生物325件、残留農薬22件などの検査を行いました。

産地・工場点検 176件

安全・安心な商品をお届けするために、産地・工場点検を実施しています。

東海コープが実施した点検は111件、取引先が実施した点検は65件でした。

お届けする商品の検査 9,349件

検査分野	検査件数
微生物	8,573
残留農薬	447
アレルギー	23
ヒスタミン	162
食品添加物	40
残留放射性物質	63
その他	41

お申し出の対応 2,067件(要回答)

26,871件のお申し出のうち、調査が必要な2,067件について取引先に要請しました。調査報告の内容を確認し、組合員に回答しています。また、原因調査のため商品検査センターで以下の検査を行いました。

検査(お申し出)内容	検査件数
異味・異臭	3
有症・腐敗・変敗	3
味覚(塩味)	3

リスクの早期発見と迅速な対応

仕様書点検による対応事例

eBASE(商品管理システム)による商品の仕様書の点検でアレルギー、原料原産地、食品添加物などが正しく表示されているか確認します。特にアレルギーの表示方法の間違いは、重大事故につながります。2024年度はアレルギー表示に関わる5件(卵、くるみ、アーモンドの表示もれ、魚介類の表示方法など)の指摘を行い、修正しました。

お申し出からの改善事例

「豚の生姜焼き」で、ラップ包材が破れているというお申し出が多発していました。製造元では包材の材質や厚みを見直し、破れにくいものに改善しました。その結果、同様のお申し出はなくなり、シリーズ商品の他のお肉でも、同様にラップ包材破れのお申し出が大幅に減少しました。

企画週	包装破れの件数
2023年12月1週	12件
2024年 1月4週	3件
2024年 4月3週	11件
2024年 5月5週	6件
ラップ包材の材質を改善	
2024年 6月4週	0件
2024年 7月3週	0件
2024年 8月2週	0件
2024年 8月4週	0件

品質管理の力量アップをめざした取り組み

お申し出対応力アップをめざした取り組み

● 宅配責任者向けお申し出学習会

会員生協の宅配のお申し出責任者に「初期対応の重要性」や「現品を送る際の注意事項」などについての学習会を実施しました。あわせてお申し出現品を送る際に役立つ「お申し出現品送付キット」を全事業所に渡し、運用ルールを統一しました。

● 配達担当者向けお申し出対応学習会

講師が組合員役となり、配達現場を想定したお申し出対応のロールプレイングによる学習会を実施しました。代表者がお申し出の受付役を担当し、その対応の良かった点や改善点についてグループワーク形式で意見を交換しました。組合員に寄り添った対応を考える良い機会となりました。

取引先の力量アップをめざした取り組み

毎年、取引先の品質管理に関わる方を対象に「虹の会品質管理研究会」を開催しています。2024年度は東海コープのお申し出事例報告と「ヒューマンエラーと教育」について講演、パネルディスカッションで教育に関する悩みを交流しました。57社が参加され、「なぜヒューマンエラーが起こり、防止するためにどう考えたらよいのかよくわかりました。」「経験のある方々の話をディスカッション形式でさまざまな意見を伺うことができてとても勉強になりました。」などの感想が寄せられました。



商品検査センターの学習・体験機能の活用

組合員の学習会や地域のイベントに対応しました

食の安全や食と健康に関わる組合員向けの学習会や商品検査センターの見学会に対応しました。また、コープぎふ・コープあいち・コープみえの地域向けのイベントで、ベジチェックや食育クイズなどを活用しながら、生協の食の安全や品質管理の取り組みについてお知らせしました。

2024年度 学習会等対応数

	組合員		職 員		イ ベ ント		合 計	
	会場数	人数	会場数	人数	会場数	人数	会場数	人数
コープぎふ	6	120	6	116	2	500	14	736
コープあいち	5	90	9	171	9	1,171	23	1,432
コープみえ	1	10	2	35	19	4,245	22	4,290
東海コープ	1	12	2	111	3	408	6	531
総 計	13	232	19	433	33	6,324	65	6,989



生協の食の安全・食と健康についてお知らせする活動

中学生の家庭科授業に協力しました

長久手市立南中学校1年生(280人)の家庭科授業に協力しました。商品検査センターの見学では、手洗い実験や残留農薬・食品添加物について、体験を交えた学習をしました。栄養バランスの良い献立を考える体験では、結果を持ち帰ってもらい、保護者の方のコメントをいただきました。



こども実験教室「生協ひみつ探検隊～今日からキミもたまご博士」

夏休みに「こども実験教室」を開催しました。生協たまごをテーマに、マヨネーズをつくりながら「乳化」についての実験や、商品検査センターの見学を通して生協たまごの特徴を学びました。生産者とリモートでつなぎ、養鶏や卵のパックセンターの様子を見学し、子どもの質問を生産者の方に丁寧に応えていただきました。参加者からは「産地の方の話はとてもわかりやすく、次回から生協のたまごを買ってみようと思いました。」という感想も寄せられました。冬もたまごをテーマにインスタライブでマッシュマロづくりの実験、よくある卵の質問にお答えするQ&Aを行い、多くの方にご視聴いただきました。



職員教育

「安全安心」学習会

● 「食の安全知識テスト」

宅配、店舗職員の「食の安全」に関わる学習として、年6回食の安全知識テスト(農薬、添加物、お申し出、遺伝子組換えなど)を実施しました。

● 「安全安心マイスター育成講座」

生協の食の安全の考え方を理解し、組合員に食の安全を説明できる職員の育成を目的として開催しました。生協の安全安心の歴史、農薬や添加物、食の安全の話題について学習を行い、講義だけではなく、グループワークで参加者が交流しながら、理解を深めました。



情報提供

「リスクコミュニケーション」食の安全おしゃべり会

輸入食品(7月)、農薬(2月)をテーマに、外部講師による学習会と、参加者との意見交流を行うリスクコミュニケーションをWebで開催しました。申込時や当日に質問を受け付け、講師の方に説明していただきました。参加者からは、「普段聞けない話が聞けたこと、実際の食の安全の取り組みを知り、不安が少し解消された。」といった声も寄せられました。

8 組合員のくらしに寄り添ったサービスを提案

■ エアコンクリーニング

例年の猛暑で夏場のエアコンは必需品となりました。エアコン使用率は高まる一方で、効率的な冷房効果や衛生面から、定期的なメンテナンスが必要です。2024年はエアコン稼働前の4月から6月にかけて割引やカビ防止剤塗布の無料キャンペーンを実施し、約1,000名の組合員にご利用いただきました。(前年比130%)

共働きや高齢者世帯が増え、エアコンの掃除をしたいものの「時間がない」、「高所作業が不安」といった声に応え、幅広い年代の組合員にご利用いただきました。



■ 電子チケットの販売

組合員の「今使用したい」にお応えし、e-フレンズ チケットショップにて、事前購入・事前支払・スマホ提示で利用できる「電子チケット」を2024年7月より導入しました。レゴランド®・ジャパン、ラグナシア、サンリオピューロランド、アクア・トトぎふの4施設でスタートし、2024年度累計で5,428名にご利用いただきました。ペーパーレス・郵送なしで環境にも負荷が少なく、市場傾向も踏まえ利用方法を変化させました。



9 会員生協とともに進めるリサイクルの取り組み

■ 資源リサイクルの取り組み

組合員にお届けした商品案内や容器を、会員生協を通して回収し再生品の原料として活用しています。

単位:kg

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
商品案内等(紙類)	回収量	8,523,610	8,865,520	9,200,492	8,774,342	8,447,001
	回収率	74.2%	75.0%	78.0%	77.3%	77.7%
卵パック(A-PET)	回収量	96,854	98,357	98,870	89,435	94,090
	回収率	74.2%	75.0%	54.7%	51.5%	53.0%
商品とカタログのお届け用ポリ袋	回収量	145,554	152,198	149,871	145,144	143,124
	回収率	40.5%	40.5%	42.9%	41.3%	41.7%

- 商品案内等(紙類)…再生紙の原料としています。
- 卵パック(A-PET)…再び卵パックなどの原料としています。
- 商品とカタログのお届け用ポリ袋…「ハンガー」「クリアファイル(文具)」「建設資材」などの原料としています。

10 働きやすい環境づくりと職員の学習

毎月実施するeラーニングによる学習、ワークライフマネジメント※の実現などに取り組んでいます。

■ ワークライフマネジメントの実現に向けた取り組み

「ノー残業デー」「フレックスタイム制」を導入しています。毎週木曜日のノー残業デーの取り組みでは、始業・終業時の館内放送、掲示板や館内モニターなどでの告知により、定時退勤を促し、仕事とプライベートを両立できる環境づくりを推進しました。また、商品部や管理本部、宅配物流部ではフレックスタイム制を導入していることで、働き方にメリハリをつけ、業務効率を意識しながら仕事に取り組むことができ、総労働時間の削減につながっています。

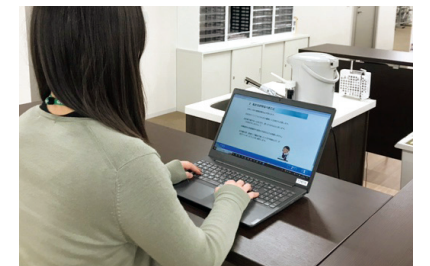
※ワークライフマネジメントとは、個人が主体的に自己を管理して仕事と生活の両方を充実させるという考え方

■ 職員の意識調査アンケートを実施

職員の意識や職場の運営状況を把握するため、東海コープ全職員に意識調査アンケートを実施しました。アンケートは「自分自身の意識・行動レベル」と「職場での推進レベル」の調査を目的とした28の設問とし、職員が普段感じていることなど率直な意見も数多くあり、働きやすい環境づくりにつなげています。

■ 職員の学習

パソコン環境を活用したeラーニングを実施しています。パソコン環境のないパート・アルバイト職員には、教材を配布して職場学習を実施しています。2024年度は職員ハンドブックと連動させ、毎月「コンプライアンス」「情報管理」「働き方のルール」などの各単元をテーマとし、eラーニング学習を通して理解を深めています。



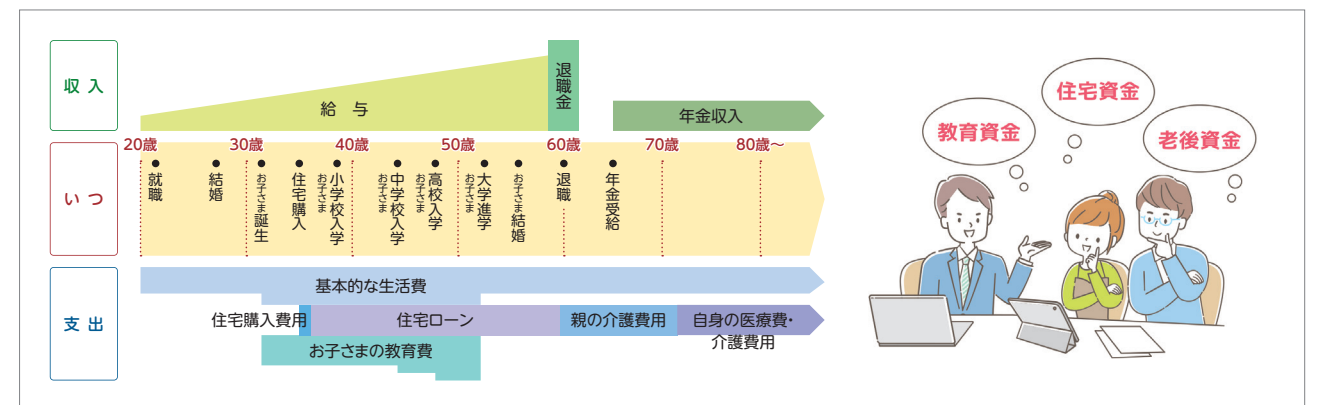
11 くらしの保障をとおして安心と笑顔をお届け

■ 株式会社コープサービス東海

東海3生協の組合員へ
ライフプラン提案企画を広めることができました。
2024年度は1,100人でした。

ライフプランを作成することで、10年後…20年後…どんなライフイベントがあって、必要資金はどれくらい必要なのか。家計の収支状況のシミュレーションをみることができ、多くの組合員から満足の声が寄せられています。

●ライフプランニングイメージ



利用者声(抜粋)

- 今回このような機会を作って頂きありがとうございました。コープからだったので安心もありました。お金のことなど主人に任せていることもあり、今回自分自身も色々を知ることができました。親切な方で、丁寧に教えて頂いたのでも良かったです。
- 自分では気付けない家計の将来のことを知れて役立ちました。想像しているよりも教育や生活にお金がかかることを数字にされるととても良く分かりました。見直すべきところがたくさんありそうなので今回FPさんに相談出来て本当に良かったです。無料で相談出来たのもとても助かりました。



TOKAI CO-OP
**Sustainability
Report**
2025

生活協同組合連合会
東海コープ事業連合

東海コープ事業連合の事業概要

2025年3月20日現在

■事業の概要

名 称 生活協同組合連合会 東海コープ事業連合
本 部 愛知県名古屋市名東区猪高町
上社字井堀25-1
設 立 1994年4月1日
区 域 岐阜県・愛知県・三重県
総 事 業 高 929億円(2024年度)
総事業高は会員生協への出荷高、及び会費・分担金、
その他の事業収入を合計したものです。
出 資 金 9.86億円(2024年度)
職 員 数 594人(パート含む2025年3月20日現在)
東海3生協
の組合員数 1,046,560人(2025年3月20日現在)

■事業内容

商 品 事 業 商品の仕入れ・調達、商品の開発・改善、
お申し出管理、品質管理業務・商品検査業務
宅 配 事 業 宅配商品の商品案内書作成・企画、受注業務
店 舗 事 業 店舗商品の仕入れ・調達、企画、プロモーション
情報システム事業 宅配・店舗事業のシステム開発・運用
物 流 事 業 宅配・店舗商品の仕分け事業、
会員生協配送センターまでの物流管理
生活サービス事業 旅行事業、提携事業、チケット取扱い業務

■子会社の概要

株式会社コープサービス東海
所在地 名古屋市中区伊勢山2-8-21
NKビル3F
業 務 損害保険代理店業務、
生命保険募集に関する業務

お問い合わせ 経営管理部 TEL 052-703-1769 FAX 052-703-5567

発行日：2025年6月11日 発行者：生活協同組合連合会 東海コープ事業連合



FSC®認証

Forest Stewardship Council® (FSC®) は、責任ある森林管理を世界に普及させることを目的とする国際的な非営利団体です。FSCは、環境、社会、経済分野の利害関係者の合意によって支持された、責任ある森林管理の原則に基づく規格を定めています。この冊子はFSC®認証紙を使用しています。



ベジタブルインクマーク

この冊子は、印刷インキ工業連合会が定めた大豆油、亜麻仁油、桐油、ヤシ油、パーム油等植物由来の油、及びそれらを主体とした廃食用油等をリサイクルした再生油を使用した植物インキを使用し、印刷しています。